

2020年9月10日

2020年8月度市況

東京洋紙同業会（紙青会作成）

<印刷用紙 A>

平判は7月に引き続き学参テキスト関連、包装紙、封筒関連は堅調に推移したが、不動産、その他チラシ、冊子関連、一般印刷物の動きは低調であり前年を大幅に下回った。

巻取は金融、生損保関連の動きが鈍く、またコロナ禍による各種イベントの自粛で需要も少なかった。前月に引き続き低調で前年を大幅に下回った。

（前年比 平判 85.5% 巻取 57.6%）

再生紙平判は小ロット物件の積み重ねで厚物の引き合いは多少あった。しかし、在庫が少なく、一般品に変更するケースがあり前年を大幅に下回った。再生紙巻取は前年の数字が低調であった上、自治体、外郭団体関連の大口受注があり前年を上回った。

（前年比 再生上質平判 73.0% 再生上質巻取 110.5% 再生上質計 83.3%）

（前年比 印刷用紙 A78.9%）

<A2 コート>

生損保、自動車、不動産で保留となっていたカタログ、パンフレット、チラシ案件で一部動きがあったが、各業界においてコロナ禍での自粛が継続されており、各種イベントの中止、延期で印刷物案件全般の需要が大きく減少し、平判巻取とも前年を大幅に下回った。

（前年比 平判 77.6% 巻取 77.2% 全体 77.5%）

<A3 コート>

百貨店、食品デリバリーで動きがあった。また、スーパー、量販店、学習塾定期案件のチラシで一部回復の動きがあったものの、継続的な紙離れとコロナ禍の影響が大きく前年を大幅に下回った。

（前年比 平判 74.0% 巻取 90.2% 全体 83.1%）

<ノーカーボン紙>

一部歳末商戦の動きも見られたが、コロナ禍の影響を受け生損保、金融関連の動きも非常に弱く平判巻取共に前年を大幅に下回った。

（前年比 平判 74.9% 巻取 76.7%）

<上質フォーム>

コロナ禍によるプレミアム商品券、トラベル案件の需要が一部見られたが、金融、官庁関連の納付書はじめ一般の動きも非常に弱く、その他新規案件の動きもなく前年を大幅に下回った。

（前年比 80.2%）

<包装用紙>

特殊両更は企業向け事務用封筒の出荷が依然好調で前年を大幅に上回った。

(前年比 125.6%)

軽包装は製本会社向け雑包装用途とその他包装用途の落ち込みが依然大きく前年を大幅に下回った。

(前年比 83.9%)

片艶晒は手提げ袋の回復が追い付いてはいないが封筒関連は比較的堅調で前年並みに推移した。

(前年比 100.8%)

両更晒はDM用封筒、土産用手提げ袋の需要の落ち込みが下げ止まらず前年を大幅に下回った。

(前年比 80.1%)

純白ロールはお盆の帰省による需要(土産関係や生花店向け)が少なく前年を大幅に下回った。

(前年比 80.9%)

包装紙全体でも87.2%と前年を大幅に下回った。

<板紙>

食品、中食用途、テイクアウト向け、出版向けは動きがあったもののコロナ禍の影響を受けエンタメ系、POP関連、販促物は依然低調な動きであった。

外出自粛やインバウンド需要の減少も影響し医薬品、化粧品向けの動きも鈍く、土産物需要の回復も遅れており前年を大幅に下回った。

(前年比 86.6%)